

会 報

○第七〇回学術大会

九月二日(金)―四日(日)の三日間、関西学院大学において以下の日程で開催され、五〇〇名の参加者があった。

・九月二日(金)

学会賞選考委員会

一二時―一三時

庶務委員会

一三時半―一四時半

国際委員会

一三時半―一四時半

情報化委員会

一三時半―一四時半

開会式

一四時半―一四時四〇分

公開シンポジウム

一四時四〇分―一七時四〇分

理事会

一八時―一九時半

・九月三日(土)

研究発表(個人、パネル)

九時―一二時四〇分

評議員会

一二時四〇分―一四時

研究発表(個人、パネル)

一四時―一六時

会員総会

一六時二〇分―一七時四〇分

懇親会

一八時―二〇時

・九月四日(日)

研究発表(個人)

九時―一二時一五分

『宗教研究』編集委員会

一二時一五分―一三時

プログラム委員会

一二時一五分―一三時

研究発表(個人、パネル)

一三時一五分―一六時一〇分

○日本宗教学会賞選考委員会

日時 二〇一一年九月二日(金)一二時―一三時

場所 関西学院大学 G号館一三教室

出席者 岩田文昭、河東仁、小坂国継(長)、渡辺学

議 事

審査の結果、伊達聖伸氏の以下の業績を推薦することを決定した。推薦理由は以下の通りである。

二〇一一年度学会賞選考委員会報告

伊達聖伸氏(上智大学准教授)の研究業績について

審査対象

『ライシテ、道徳、宗教学―もうひとつの一九世紀フランス

宗教史』(勁草書房、二〇一〇年二月刊)

本書は、「ライシテの道徳」と「宗教学」の形成過程を同時に解明することで、フランス一九世紀の精神世界を一つの宗教史として見事に描き出している。

本書の課題と目的は、「宗教」概念の歴史的形成を明らかにし、ライシテの道徳における「宗教性」の「生成」過程とその理解のための「枠組み」を提示することにある。この野心的な試みは、四部十章(本文五三六頁、索引等五〇頁)からなる大著の中で、第I部「胚胎期のライシテの道徳と宗教の科学的研究―二重の脱宗教化」からはじまり、第IV部に至るまで、全編で貫徹されている。とりわけ、第IV部では、そのタイトル「道徳と宗教の新たな合流点―「宗教のあとの宗教性」が示すとおり、デュルケムの「社会学的な宗教性」とベルクソンに

おける「心理学的・存在論的な宗教性」との比較において、第三共和政の「ライシテの道徳」との連関性が論じられ、この「ライシテ体制」による「ライシテの道徳」が「従来の宗教概念」とは異なった「宗教性」を現出させたと結論づけていることは、本書の課題と目的の一貫性を象徴するものとして高く評価される。

本書のすぐれた点は、第一に、ライシテの進展のそれぞれの段階における重要な思想家や研究者の言説を本主題との連関で解明し、その思想的位置を明確にしたことにある。コント、ルナン、フェリー、デュルケム、ベルクソンなど多くの思想家が取り上げられているが、そのテキスト読解は正確であり、かつ透徹した理解を示している。たとえば、道徳を土台にした政教関係のモデルをコントの思想から摘出したことは、それ自体が当該の研究領域における優れた貢献といえる。また、ベルクソンの『意識に直接与えられたものについての試論』における「持続」の概念に見られる宗教性を指摘したことは、それを一個のベルクソン論として見ても、きわめて卓越した解釈といえよう。

第二に、宗教学をはじめとして諸学を、既成の枠組みではなく、一九世紀の時代思潮の中で意義づけたことが評価できる。このことには、大きく二つの方向での学的貢献がある。一方で、ライシテの諸価値を宗教性の観点から分析し、諸思想や教育制度のあり方を「宗教」概念との関わりから解明したことで、フランスのライシテに関わる、法学・政治学・教育学・歴史学・文学・思想史・哲学等さまざまな学問分野に大きな刺激

を与えるものと期待される。他方で、一九世紀フランス人文学の中での宗教学的なるものの生成を巧みに描写したことにより、「宗教」の科学的研究が暗黙の内に前提していたものを露わにした。すなわち、「宗教学」の成立それ自体が、そもそもキリスト教の重力圏から抜け出すことをその大きな目的とし、また新たな地平を切り開いていく際の原因力としていながら、当の宗教学の内にキリスト教の執拗低音が聞き取れる所以を示している。

第三に、本書は一九世紀フランスにおけるライシテの分析を通して、近代における宗教と宗教性のあり方についての視座を提供している。この視座は、さまざまな地域や時代の宗教性の分析に役立つと考えられる。著者は、理論と実践の両面に関して、フランスの良い目配りをもって一九世紀フランスの精神世界を論述しているが、その論述の端々に、著者の現代的関心が窺われる。本書の視座は、たとえば、戦前の日本の国民道徳や戦後日本の道徳の授業における「畏敬の念」の分析などにも示唆するところが大きい。

とはいえ、本書に課題がないわけではない。本書が扱っている領域が幅広く、多くの問題を論じているだけに、さらに探究すべきことも少なくない。本書のあとがきで著者が触れているように、重要な思想家で論じられていない人も多い。第Ⅳ部で論じたデュルケムやベルクソンの思想を踏まえた上で、一九一四年以降の教育のライシテの行く末も論じて欲しい。また、本書「結論」で指摘された「宗教」と「宗教性」の問題についてさらなる貢献が期待される。

しかしながら、これらはいずれも本書の成果を待って初めて生ずる課題であって、それはまさに隴を得て蜀を望むようなものである。本書は、一九世紀フランスのライシテについてまとめた像を提供し、今後、多くの領域の研究を推進する内容を提示しており、本委員会は、本書を二〇一一年度日本宗教学会賞にふさわしい業績であると判断する。

○庶務委員会

日時 二〇一一年九月二日(金) 一三時半—一四時半

場所 関西学院大学 G号館一一八教室

出席者 芦名定道、池上良正(長)、市川裕、岩田文昭、嶋田義仁、関一敏、深澤英隆、八木久美子、山中弘、(オブザーバー) 島蘭進

議 事

一、学術大会関係

来年度より、パネルが不採用になった場合、個人発表に回れないこと、パネルと個人発表の申込締切日を同じにすることを了承した。また、個人発表の申し込みに必要なキーワード案を検討した。

二、会費滞納による退会規定

会費未納による退会者の状況をふまえて、「二年間会費を滞納した者は会員資格を失う」とする改正案を了承した。

三、会員名簿発行について

来年六月を目途に発行することを基本的に了承した。ただし、現時点では約四割の会費が未納で予算に組めないため、

今後の財政状況を考慮しつつ最終判断することになった。

○国際委員会

日時 二〇一一年九月二日(金) 一三時半—一四時半

場所 関西学院大学 G号館一九教室

出席者 池澤優、奥山倫明、川橋範子、木村武史、澤井義次(長)、丹羽泉、林淳、藤原聖子、カール・ベッカー

議 事

一、IAHR関連

八月下旬、IAHR Bulletin が発行されたことが藤原委員より報告された。具体的な内容は、今回の学会メールマガジンとおして、各会員に連絡予定であるが、おもな内容は次のとおりである。

・第二〇回IAHR世界大会(二〇一〇年、トロント)のプロシーディングスが刊行された。

・今回の第二一回IAHR世界大会が、二〇一五年八月二—二九日、ドイツ・エルフルト市で開催される。

・学会誌 *Numen* の刊行が、年五回から年六回になった。

さらに、IAHR執行部から、IAHR名誉会員の推薦依頼があり、国際委員会として、昨年までIAHR副会長を務めた月本昭男氏(立教大学教授)を推薦することになった。

二、第九回ドーハ宗教間対話会議について

外務省から島蘭会長に、今年一〇月にドーハ(カタール)で開催される第九回宗教間対話会議への宗教研究者の派遣依頼が届いた。国際委員会では、小原克博氏と渡辺学氏を推薦す

ることになり、外務省に報告し、両氏の派遣が決定した。

三、その他の国際会議

① 国際宗教社会学会 (ISSR/SISR) 第三一回大会

日程 二〇一一年六月三〇日―七月三日

場所 エクサンプロヴァンス (フランス)

日本から六名の研究者が参加したこと、アジア地区の研究者およびアジアに関心をもつ研究者のネットワークが作成されることになったことが報告された。また田島忠篤氏に代わって、櫻井義秀氏が日本地区代表理事に選ばれたこと、次の大会が二〇一三年六月二七日―三〇日、フィンランドのトゥルクで開催予定であることも報告された。

② 南・東南アジア宗教文化学会 (SEASR) 第四回大会

日程 二〇一一年六月三〇日―七月三日

場所 ティンプー (ブータン)

この大会期間中、IAHRの理事会が開催され、藤原委員が出席したことが報告された。

③ 英国スピリチュアリティ研究学会 (BASS) 第二回国際会議

日程 二〇一二年五月一日―一七日

場所 英国・ノーザンプトン

ベッカー委員より、スピリチュアリティ研究の国際会議の開催予定が報告された。

四、その他

・英語版電子ジャーナルの進捗状況について

奥山委員 (英文ジャーナル編集委員長) より、現在、投稿論

文の再募集を行っていることなど、編集の進捗状況が報告された。

・学術大会の英文報告のHP掲載について

日本宗教学会の研究動向を海外へ紹介するために、学術大会に関する英文報告書を作成することになった。英文報告書の原案は国際委員会で作成し、情報化委員会の了承を得て、日本宗教学会のHPへの掲載をお願いする。学会HPに掲載された後、IAHRへも報告する方向で検討していく。

○ 情報化委員会

日時 二〇一一年九月二日 (金) 一三時半―一四時半

場所 関西学院大学 G号館一六教室

出席者 栗津賢太、デール・アンドリュース、石井研士 (長)、川端亮、鈴木岩弓、津城寛文、中野毅、矢野秀武、弓山達也、(オブザーバー) 阿久戸義愛、岡本亮輔、山田庄太郎

議事

一、英文HPの充実について

HPの英文化について、外国人研究者の本学会参加の可能性を勘案しつつ、学術大会のシンポジウム等の一般公開部分や発表英文タイトル、『宗教研究』掲載論文の英文タイトルや概略を載せていくことが確認された。

二、サーバーの移行について

学会HPの新サーバーへの移行が完了したことが報告された。今後は『宗教研究』論文タイトルと論文PDFとの関連

づけを行うことが確認された。あわせて次号のメールマガジンの発行や大会実行委員会に大会HPのサーバースペースの提供が可能であることが報告された。

三、今期の情報化委員会について

HPの更新、情報化委員会とワーキンググループとの連絡体制や業務区分の明確化、リンクの整理、サーバーの移行、メールマガジンの発刊など、今期の情報化委員会の活動を振り返り、新会長への引き継ぎの打ち合わせを行うことが確認された。

○理事会

日時 二〇一一年九月二日(金)一八時—一九時半

場所 関西学院会館 翼の間

出席者 浅見洋、芦名定道、池澤優、池上良正、石井研士、市川裕、井上順孝、岩田文昭、大村英昭、小田淑子、加藤智見、鎌田繁、鎌田東二、河東仁、氣多雅子、小坂国継、佐々木啓、佐藤憲昭、澤井義次、塩尻和子、島蘭進、嶋田義仁、下田正弘、白川琢磨、白山芳太郎、末本文美士、鈴木岩弓、関一敏、高田信良、田島照久、田中雅一、對馬路人、津城寛文、土田友章、鶴岡賀雄、土井健司、中野毅、長谷部八朗、林淳、藤原聖子、カール・ベッカー、星野英紀、松尾剛次、松村一男、諸岡道比古、矢内義顕、山崎亮、山中弘、弓山達也、吉永進一、渡辺学、奥山倫明 (*Religious Studies in Japan* 編集委員長)

議 事

一、会計報告

山中庶務委員より、二〇一〇年度の決算報告と二〇一一年度の予算案が提出され、承認された。(別記参照)

二、日本宗教学会賞

小坂委員長より審査結果が報告され、報告通りに決定した。

三、諸委員会からの報告と提案

(1) 庶務委員会

学術大会発表申込の変更点、会費滞納による退会規定を「二年間会費を滞納した者は会員資格を失う」とすることが了承された。来年六月の会員名簿の発行は、今後の財政状況により、最終判断する。

(2) 国際委員会

IAHR他の国際会議について報告された。IAHRの名誉会員に、昨年までIAHR副会長を務めた月本昭男氏を推薦することが了承された。

(3) 情報化委員会

学会HPを新サーバーに移行した。英文HPについて検討したことが報告され、意見交換を行った。

(4) 『宗教研究』編集委員会

七月の理事会で承認された投稿論文の査読体制の改定点が確認された。

(5) *Religious Studies in Japan* 編集委員会

九月末日締切で投稿募集を行っているが、理事に本査読を依頼することなどが説明された。

四、会長選挙の結果

下田選挙管理委員長より選挙の結果、井上順孝常務理事が会長に決定したことが報告された。

五、編集委員の交代

任期終了の樫尾直樹氏に代わって、清水邦彦氏に委員を委嘱したことが会長より報告され、承認された。

六、次年度の学術大会

白山理事より、皇學館大学で、二〇一二年九月七日―九日に開催することが報告された。

七、日本学術会議・日本宗教研究諸学会連合・日本哲学系諸学会連合関連

・星野日本宗教研究諸学会連合委員長より、九月一八日に日本学術会議哲学委員会主催のシンポジウム「原発災害をめぐる学者の社会的責任―科学と科学を超えるもの―」を日本哲学系諸学会連合とともに共催することが報告された。

・島蘭日本学術会議会員より、哲学委員会主催のシンポジウムの提言について、また第二期の会員、連携会員が九月中に決定することが報告された。

・末木常務理事より、今回のFISP世界哲学会議が二〇一三年八月にアテネで開催されることが報告された。

・氣多常務理事より提出された哲学系四学会高校公民科教育連絡会の「高等学校公民科「倫理」の扱いについての要望」が了承された。

八、宗教文化教育推進センター

小田運営委員より、第一回の認定試験が本年十一月一三日に

行われることが報告された。

九、新入会員

別記五名の入会が承認された。

一〇、名誉会員

荒井猷、伊藤唯真、越前喜六、加賀谷寛、佐々木宏幹、田賀龍彦、田丸徳善、平野孝國、松塚豊茂の九氏に名誉会員になっていただくことが決定された。

一一、任期終了の委員について

島蘭会長より、任期終了となる委員会の委員（庶務、国際、情報化、プログラム）が報告された。

一二、委員会の新委員について

井上次期会長より、二〇一二年度のプログラム委員を、河野訓、櫻井治男、對馬路人、土井健司、深澤英隆、松村一男の六氏と会長とする旨が発表され、了承された。庶務・国際・情報化委員についても、一〇月に常務理事会を開き、新委員を決定するとの説明があった。

一三、次年度の理事会の日程

四月一四日（土）

七月七日（土）

九月七日（金）

〇評議員会

日時 二〇一一年九月三日（土）一二時四〇分―一四時

場所 関西学院大学 G号館一〇一教室

出席者 一二名

議 事

一、諸報告

会計報告／日本宗教学会賞／会長選挙の結果／次年度の学術大会／日本学術会議哲学委員会主催のシンポジウム

二、会員名簿の発行／会費滞納による退会規定／個人発表に申し込む際に記入するキーワードについて

○会員総会

日 時 二〇一一年九月三日(土)一六時二〇分—一七時四〇分

場 所 関西学院大学 G号館一〇一教室

出席者 大会参加会員数五〇〇名、定足数一六七名、出席者数(委任状提出者を含む)三二八名、よって総会は成立した。

議 事

一、開会

二、議長に對馬路人氏を選出

三、日本宗教学会賞

四、会計報告

五、諸委員会報告

庶務委員会／国際委員会／情報化委員会／『宗教研究』編集委員会／*Religious Studies in Japan* 編集委員会／編集委員の交代

六、日本学術会議、日本宗教研究諸学会連合関連

七、宗教文化教育推進センター

八、会長選挙の結果

九、次年度の学術大会

一〇、名誉会員

一一、島蘭現会長の挨拶、任期終了の委員についての報告

一二、閉会

○『宗教研究』編集委員会

日 時 二〇一一年九月五日(日)一二時一五分—一三時

場 所 関西学院大学 G号館一八教室

出席者 安藤泰至、大谷栄一、久保田浩、佐々木啓、清水邦彦、鶴岡賀雄(長)、細田あや子、袁輪顕量、村上興匡、渡辺学

議 事

・二〇一二年度の特集号(テーマ…災禍と宗教)の執筆候補者として、新たに一名を決定した。

・三七二号以降に掲載の書評について、取り上げる書籍および書評執筆候補者を選定した。

・刊行費削減のため、本年一二月発行の号より、用紙を若干薄いものに変更する。

○プログラム委員会

日 時 二〇一一年九月四日(日)一二時一五分—一三時

場 所 関西学院大学 G号館一九教室

出席者 櫻井治男、島蘭進、對馬路人、土井健司、深澤英隆、松村一男

議 事

- ・ 今大会の発表取消者と取り消し理由が報告された。
- ・ 発表申込に関する次年度からの変更点について検討と確認を行った。

○常務理事会

日 時 二〇一一年一〇月二三日(土)一五時―一七時

場 所 國學院大學 学術メディアセンター プロジェクト

ルーム2

出席者 池上良正、井上順孝、阪本是丸、櫻井治男、田島照久、山中弘

議 事

一、各種委員会の新委員について

井上会長より、以下の各氏に庶務、国際、情報化委員会の委員を委嘱したことが報告され、承認された。同日より新委員による委員会が発足した。

・ 庶務委員会

芦名定道、市川裕、岩田文昭、木村敏明、鈴木正崇、深澤英隆、八木久美子、山中弘(委員長)

・ 国際委員会

池澤優、川橋範子、木村武史、櫻井義秀(委員長)、澤井義次、下田正弘、長谷千代子、丹羽泉、藤原聖子、カール・ベッカー

・ 情報化委員会

栗津賢太、石井研士、岩井洋、中野毅、弓山達也(委員長)

また、二〇一二年度のプログラム委員に渡辺学氏が加わり、*Religious Studies in Japan* 編集委員から他の委員会の委員長は外れること、庶務委員会の最後の三〇分に国際委員会、情報化委員会、(プログラム委員会)の委員長が加わることで了承された。

これに加え、一月に、デール・アンドリュース氏と猪瀬優理氏に情報化委員を委嘱したことが会長より報告された。

二、評議員選考委員選挙の廃止と評議員推薦選挙の新設

従来の評議員選考委員選挙の廃止と評議員推薦選挙の新設に関する概要が井上会長より説明され、了承された。来年四月の理事会に諮る。

三、学術大会関係

次年度の発表申込締切日等の確認を行った。

発表申込締切日…個人発表・パネル発表ともに五月二〇日
四、会員名簿について

記載項目、掲載する会員、掲載方法等を決定した。

○新入会員 (九月二日承認分)

Antonius Rahmat Pujo Purnomo 東北大学大学院

石森 大知 東京外国語大学研究機関研究員

川崎のぞみ 筑波大学大学院

佐藤 洋 東洋大学大学院

LOPEZ PAZOS, Juan Jose サンティアゴ・デ・コンポステラ

大学大学院